

I 活動報告

課題研究Ⅱ「教師教育改革の国際動向と比較研究の課題」

担当理事：佐藤千津 吉岡真佐樹

1. 課題研究スタート時の問題設定

当初のねらいは『教師教育研究ハンドブック』第三部「諸外国の教師教育」の内容をもとに教師教育改革の国際動向を分析し、グローバルに共通な教師教育ないし教師教育研究の課題を抽出することであった。その課題について具体的に検討するなかで、教育の「社会的公正」をめぐる問題は『教師教育研究ハンドブック』や過去の課題研究において必ずしも十分に対象化されていないことに注目し、「教師教育における社会的公正の観点と課題」を今期の研究テーマとして設定した。子どものニーズが多様化するなか、社会的公正の視点を有する教育や、そうした教育の担い手を育成するための教師教育が必要とされている。教師教育において「社会的公正」や「社会正義」の概念がどのように位置づけられているのかを各国・地域の取り組みに即して捉えながら、そこで求められる教師像や教師教育の在り方について分析することとした。

2. 部会メンバー（五十音順）

- 北田佳子（埼玉大学）
- 斎藤里美（東洋大学）
- 佐藤千津（国際基督教大学）
- 佐藤 仁（福岡大学）
- 田中潤一（関西大学）
- 玉井康之（北海道教育大学釧路校）
- 張 揚（北海道大学）
- 中山あおい（大阪教育大学）
- 前田耕司（早稲田大学）
- 百合田真樹人（教職員支援機構）（～2019年3月）
- 吉岡真佐樹（京都府立大学）

3. これまでの活動概況（時系列）

【2018年】

- (1) 第1回研究会：5月12日（土）13時～15時20分 早稲田大学
報告：佐藤千津「教師教育研究における『比較』の方法と課題—課題研究2『教師教育改革の国際動向と比較研究の課題』の活動計画—」
- (2) 第2回研究会：6月14日（木）16時30分～18時40分 早稲田大学
報告①：北田佳子「アメリカの教育改革と学校改革の事例について」
報告②：百合田真樹人「教師教育の実践と研究における前提の顕在化を図る手段としての比較研究のあり方（具体的事例）」
- (3) 第28回研究大会（第3回研究会）：9月29日（土）14時45分～17時45分 東京学芸大学
報告①：佐藤 仁「集団的自己規制としてのアメリカの教員養成評価システム—社会的公正に向けた教員養成を支える機能—」
報告②：百合田真樹人「教師教育機関の自律性とアカウンタビリティ—自律性の保証装置としてのアカウンタビリティ—」

報告③：北田佳子「アカウントビリティ政策が教師の教育実践に及ぼす影響—セントラル・パーク・イースト小・中等学校の事例を手がかりに—」
司会：吉岡真佐樹、佐藤千津

【2019年】

- (4) 第4回研究会：3月30日（土）14時～16時30分 早稲田大学
報告①：吉岡真佐樹「第28回大会（2018年）報告と討論」
報告②：張揚「中国における小中高校教員の国家研修プログラムについて—教師教育の専門化の社会正義の実現への意味合い—」
その他：最終報告書の作成について
- (5) 第5回研究会：5月25日（土）14時～16時30分 早稲田大学
報告①：田中潤一「教員養成における『社会的公正』とは」
報告②：斎藤里美「OECDにおける『多様性のための教育（TED）』の成果および課題」
その他：次回研究会の開催について
- (6) 第6回研究会：7月20日（土）14時～16時30分 早稲田大学
報告①：中山あおい「ドイツの学力向上政策と社会的公正のための取り組み」
報告②：田中潤一「『正義論』と教師教育」
その他：今後の研究会の開催や最終報告書の内容について
- (7) 第29回研究大会（第7回研究会）9月22日（日）13時～16時 岡山大学
報告①：斎藤里美「外国にルーツをもつ子どもと教師教育改革—OECD『多様性のための教師教育』からみた日本の教師教育政策—」
報告②：中山あおい「ドイツの学力向上政策と社会的公正のための取り組み—教師教育の観点から—」
報告③：田中潤一「社会的公正を実現する教員養成—哲学的観点から—」
司会：吉岡真佐樹、佐藤千津

【2020年】

- (8) 第8回研究会：7月18日（土）14時～16時30分 オンライン開催
報告①：前田耕司「ポストコロナにおけるオーストラリア先住民族主体の専門職養成」
報告②：玉井康之「アラスカ州の教師教育における社会的公正」
報告③：佐藤千津「イギリスの教師教育における社会的公正の視点」
その他：最終報告書の内容の検討
- (9) 第30回研究大会（第9回研究会）：9月13日（日）13時～16時 オンライン開催
報告①：前田耕司「オーストラリア先住民族の専門職養成—ポストコロナリズムと社会的公正」
報告②：玉井康之「アラスカ州の教師教育における社会的公正—地域協働型教師教育施策の検討—」
報告③：佐藤千津「イギリスの教師教育における社会的公正—GTCS(General Teaching Council for Scotland)の取り組みから—」
司会：吉岡真佐樹、佐藤 仁

4. 研究成果と見えてきた課題

教師教育における社会的公正の概念や理論的枠組み、具体的な政策や実践などについて各国・地域の文脈に即して検討しながら、教師の専門性・専門職性、教師教育の自律的改善システムなどについて考察してきた。こうした比較研究から、教育の課題は各国・地域によって違い、また何を課題とするかによって社会的公正や社会正義の概念・捉え方が異なることがより明確になった。また、社会的公正のための教育という目標に対し、どのような課題が存在し、目標の実現に向け、いかなる手段を講じ得るのか（社会正義の追求）といったことをそれぞれの文脈に即して丹念に整理する必要性とその課題も明らかになった。

1年目は、アメリカの教師教育を対象にして教師の職業的自律性や、それに基づく教師教育の自律的改善システムについて分析した。2年目は、教師教育における社会的公正を考えるための思想的・概念的枠組みを整理しながら、教育実践の場における多様性を手がかりに、ヨーロッパの現実的課題を分析した。3年目は、オーストラリア、アメリカ、イギリスの取り組みを分析し、社会的公正の実現に資する教師教育やそれを支える仕組みについて検討している。詳しくは 2020 年度末公刊予定の最終報告書を参照していただきたい。

5. 第 11 期研究活動への提言

スタート時には、研究テーマに関する課題や論点を整理しながら、1) 日本の教師教育研究に内在する諸課題を相対化し、2) 現代の国際的な文脈に日本の教師教育研究を位置づけながら、3) 教師教育分野における比較研究の課題と方法について検討することも視野に入れていた。しかし、文頭に述べたように、このようなテーマのなかから、特にこの3年間は「社会的公正の観点と課題」を集中的に検討することになったため、当初想定していたテーマの検討は、今後、本課題研究を引き継ぐ研究部会に委ねたい。